

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (AB102)			担当教員	安部直樹 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また薄茶点前(後半)の流れを理解し、道具の扱い方を学ぶ。それらを通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶道に使用する道具、茶事におけるもてなしについて説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前(道具を洗い、運び出すところまで)」の流れを理解することができる。				点前確認	55%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を55%とし、礼法や客作法、薄茶点前(後半)の流れについてどこまで理解しているかなどから評価する。授業態度については30%とし、薄茶点前(後半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては5%とし、10回目にポートフォリオ(manaba)を用いて行う。							
授業の概要							
<p>茶道の基本である礼法から入り、茶室での作法、道具の名称・扱い方、薄茶点前(前半)を学ぶ。点前については、茶道文化研究所作成の動画も用いながら、道具を洗い、道具を運び出すところまでを目標とする。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化IBを履修するためには、茶道文化IAの単位を取得することが必須である。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年)76～80頁</p> <p>参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年)</p> <p>指定図書：淡交社編集局著『お茶をはじめてみよう ようこそ茶の湯の世界へ』淡交社(2007年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。 ・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。 							

月2クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (安部・柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
4	・薄茶点前（後半） (茶笥を洗うまで)	茶碗を洗い、茶笥を洗うところまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前（後半） (茶笥を洗うまで)	茶碗を洗い、茶笥を洗うところまでの流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前（後半） (茶碗を元の場所に戻すまで)	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前（後半） (茶碗を元の場所に戻すまで)	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。 (柳井)	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
8	・薄茶点前（後半） (水指を持ち帰るまで)	道具の持ち帰り方を理解する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
9	・薄茶点前（後半） (水指を持ち帰るまで)	道具の持ち帰り方を理解する。 (柳井)	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
10	・茶の歴史と鎮信流について ・小テスト	茶の歴史と鎮信流の特徴などについて学ぶ。 (安部・柳井)	教科書 pp. 15～33 を読み、予習・復習をする。
11	・薄茶点前稽古	薄茶点前の流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
12	・薄茶点前稽古	薄茶点前の流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
13	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来、松浦家の風習について理解を深める。 (安部・柳井)	祝儀袋のマナーを調べておく。
14	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしのぶ。 (安部・柳井)	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを調べておく。
15	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。 (安部・柳井)	薄茶点前（後半）の完成を目指す。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (AB102)			担当教員	嶋内麻佐子 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また薄茶点前（後半）の流れを理解し、道具の扱い方を学ぶ。それらを通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。</p>							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶道に使用する道具、茶事におけるもてなしについて説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技（準備・片付け含む）に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前（道具を洗い、運び出すところまで）」の流れを理解することができる。				点前確認	55%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>点前確認の成績を 55%とし、礼法や客作法、薄茶点前（後半）の流れについてどこまで理解しているかなどから評価する。授業態度については 30%とし、薄茶点前（後半）の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については 10%とし、ポートフォリオ（manaba）を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては 5%とし、10 回目にポートフォリオ（manaba）を用いて行う。</p>							
授業の概要							
<p>茶道の基本である礼法から入り、茶室での作法、道具の名称・扱い方、薄茶点前（前半）を学ぶ。点前については、茶道文化研究所作成の動画も用いながら、道具を洗い、道具を運び出すところまでを目標とする。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400 円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化 I B を履修するためには、茶道文化 I A の単位を取得することが必須である。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011 年) 76～80 頁 参考書：嶋内 麻佐子構成 DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色 G P 関連事業(2007 年) 指定図書：淡交社編集局著『お茶をはじめよう ようこそ茶の湯の世界へ』淡交社(2007 年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。 ・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。 							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (嶋内・柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
4	・薄茶点前（後半） (茶笥を洗うまで)	茶碗を洗い、茶笥を洗うところまでの流れを確認する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前（後半） (茶笥を洗うまで)	茶碗を洗い、茶笥を洗うところまでの流れを確認する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前（後半） (茶碗を元の場所に戻すまで)	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前（後半） (茶碗を元の場所に戻すまで)	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
8	・薄茶点前（後半） (水指を持ち帰るまで)	道具の持ち帰り方を理解する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
9	・薄茶点前（後半） (水指を持ち帰るまで)	道具の持ち帰り方を理解する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
10	・茶の歴史と鎮信流について ・小テスト	茶の歴史と鎮信流の特徴などについて学ぶ。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 15～33 を読み、予習・復習をする。
11	・薄茶点前稽古	薄茶点前の流れを確認する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
12	・薄茶点前稽古	薄茶点前の流れを確認する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
13	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来、松浦家の風習について理解を深める。 (嶋内・柳井)	祝儀袋のマナーを調べておく。
14	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしのぶ。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを調べておく。
15	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。 (嶋内・柳井)	薄茶点前(後半)の完成を目指す。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (AB102)			担当教員	※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また薄茶点前（後半）の流れを理解し、道具の扱い方を学ぶ。それらを通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶道に使用する道具、茶事におけるもてなしについて説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技（準備・片付け含む）に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前（道具を洗い、運び出すところまで）」の流れを理解することができる。				点前確認	55%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を 55%とし、礼法や客作法、薄茶点前（後半）の流れについてどこまで理解しているかなどから評価する。授業態度については 30%とし、薄茶点前（後半）の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については 10%とし、ポートフォリオ（manaba）を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては 5%とし、10 回目にポートフォリオ（manaba）を用いて行う。							
授業の概要							
<p>茶道の基本である礼法から入り、茶室での作法、道具の名称・扱い方、薄茶点前（前半）を学ぶ。点前については、茶道文化研究所作成の動画も用いながら、道具を洗い、道具を運び出すところまでを目標とする。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400 円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化 I B を履修するためには、茶道文化 I A の単位を取得することが必須である。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011 年) 76～80 頁</p> <p>参考書：嶋内 麻佐子構成 DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色 G P 関連事業(2007 年)</p> <p>指定図書：淡交社編集局著『お茶をはじめてみよう ようこそ茶の湯の世界へ』淡交社(2007 年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。 ・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。 							

木2クラス、木3クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化IAで学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
4	・薄茶点前（後半） （茶笥を洗うまで）	茶碗を洗い、茶笥を洗うところまでの流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前（後半） （茶笥を洗うまで）	茶碗を洗い、茶笥を洗うところまでの流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前（後半） （茶碗を元の場所に戻すまで）	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。 (柳井)	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前（後半） （茶碗を元の場所に戻すまで）	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。 (柳井)	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
8	・薄茶点前（後半） （水指を持ち帰るまで）	道具の持ち帰り方を理解する。 (柳井)	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
9	・薄茶点前（後半） （水指を持ち帰るまで）	道具の持ち帰り方を理解する。 (柳井)	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
10	・茶の歴史と鎮信流について ・小テスト	茶の歴史と鎮信流の特徴などについて学ぶ。 (柳井)	教科書 pp. 15～33 を読み、予習・復習をする。
11	・薄茶点前稽古	薄茶点前の流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
12	・薄茶点前稽古	薄茶点前の流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
13	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来、松浦家の風習について理解を深める。 (柳井)	祝儀袋のマナーを調べておく。
14	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしのぶ。 (柳井)	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを調べておく。
15	・点前確認	薄茶点前（後半）がどこまで理解されているか、確認する。 (柳井)	薄茶点前（後半）の完成を目指す。

木1クラス

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (2021 年度秋季入学生) (AB102)			担当教員	※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後(春)期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、日本の文化を理解する力を養う。また薄茶点前(後半)の習得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前(道具を洗い、運び出すところまで)」の流れを理解することができる。				点前確認	60%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を60%とし、礼法や客作法、薄茶点前(後半)の流れについてどこまで理解しているかなどから評価する。授業態度については30%とし、薄茶点前(後半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。							
授業の概要							
点前については、薄茶点前後半の流れを学び、道具を洗い、運び出すところまでの点前を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化 I B を履修するためには、茶道文化 I A の単位を取得することが必須である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学G P 関連事業(2014年) 指定図書：筒井 紘一著『知って得する茶道のいろは』淡交社(2014年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶に関する内容(道具・菓子)などに関心を持つこと。 ・1人で点前の稽古が出来るよう、事前・事後の学習を行うこと。 ・他の流儀の茶会にも積極的に参加すること。 							

木1クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前(前半)復習①	薄茶点前(前半)の復習。 (柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、 予習・復習をする。
2	・薄茶点前(前半)復習②	薄茶点前(前半)の復習。 (柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、 予習・復習をする。
3	・薄茶点前(前半)復習③	薄茶点前(前半)の復習。 (柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、 予習・復習をする。
4	・薄茶点前(前半)復習④	薄茶点前(前半)の復習。 (柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、 予習・復習をする。
5	・薄茶点前(前半)復習⑤	薄茶点前(前半)の復習。 (柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、 予習・復習をする。
6	・薄茶点前(後半)見本	薄茶点前(後半)の見本を確認し、概要を理解する。 (柳井)	教科書 pp. 76～80 を読み、 予習・復習をする。
7	・薄茶点前(後半)稽古①	薄茶点前(後半)の復習。 (柳井)	教科書 pp. 76～80 を読み、 予習・復習をする。
8	・薄茶点前(後半)稽古②	薄茶点前(後半)の復習。 (柳井)	教科書 pp. 76～80 を読み、 予習・復習をする。
9	・薄茶点前(後半)稽古③	薄茶点前(後半)の復習。 (柳井)	教科書 pp. 76～80 を読み、 予習・復習をする。
10	・薄茶点前(後半)稽古④	薄茶点前(後半)の復習。 (柳井)	薄茶点前(後半)の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
11	・薄茶点前(後半)稽古⑤	薄茶点前(後半)の復習。 (柳井)	薄茶点前(後半)の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
12	・薄茶点前復習①	薄茶点前の復習。 (柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、 予習・復習をする。
13	・薄茶点前復習②	薄茶点前の復習。 (柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、 予習・復習をする。
14	・薄茶点前復習③	薄茶点前の復習。 (柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、 予習・復習をする。
15	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。 (柳井)	薄茶点前(後半)の完成を目指し、自主的な稽古をする。